

論語を勉強しよう

—学びて時に之れを習う、亦た説ばしからずや—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)梅雨に入りまして、晴れの日があつたり雨の日があつたり、気温が高かつたり低かつたりと天候の変化が本当に激しいですので、どうか体調にはお気をつけていただきたいと思います。
- (3)今日の「開倫塾の時間」では、先週の5月29日(日)に開催した、学習塾の先生を中心に誰が日本で一番授業が上手なのかを競う「全国模擬授業大会」でお話したことと、その次の日に、私が理事長を仰せつかっております福島市の有朋学園という高等学校で全校生徒120名に向けてお話したことについてご紹介させていただきたいと思います。

2. 論語を勉強しよう—学びて時に之れを習う、亦た説ばしからずや—

- (1)2か所でどんなことをお話させていただいたかという、「論語」のお話をさせていただきました。日本最古の学校である足利学校には、中世に全国から3000名ぐらいの学僧、つまり学問をするお坊さんが集まって2つのことを勉強しました。1つは儒教、そしてもう1つは易学、戦略論を勉強したそうです。儒教の中心は孔子の論語でありますので、皆さんで論語を勉強しましょうということをその2か所で呼びかけさせていただきました。
- (2)論語で一番有名なところは、「学而」という一番最初のところで、次のような文章があります。

子曰わく、^し ^い ^ま ^な ^と ^き ^こ ^に ^ら ^ま ^よ ^ろ ^こ
学びて時に之れを習う、亦た説ばしからずや。
^と ^も ^あ ^え ^ん ^ぼ ^う ^き ^た ^ま ^た ^の
朋有り遠方より来る、亦た楽しからずや。
^ひ ^と ^し ^い ^き ^ど ^お ^ま ^く ^ん ^し
人知らずして 搆らず、亦た君子ならずや。

これが論語の出だしの部分です。今日は、この出だしの部分がどのような意味かについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

- (3) 「子曰わく」の「子」は孔子、「曰わく」は言いましたという意味です。ですから、「子曰わく」は「孔子がこのようなことを言いました」という意味になります。
- (4) 「^{まな}学びて^{とき}時に^こ之れを^{なら}習う」の「学びて」は「学問をして」、つまり人のまねをすることから始まって、ついには「ああそうか。これはこういうことなのか」とすっかり悟りの境地に達することが学ぶことだと言われています。では、何を学ぶのかと言いますと、孔子はグループを組んで大事な勉強、つまり昔の聖人の教えを学んだわけです。「時に」は、学ぼうとしているときには機会を逃さずにいつでも、然るべきときに、タイムリーに、つまり四六時中という意味です。時々学ぶや気が向いたら学ぶのではなくて、学ぼうとして学べるときには機会を逃さずにいつでも、つまり勉強できるときには年がら年中勉強するということが、「時に」であります。先程、「学ぶ」は「ああそうか」と理解することだとお話しましたが、「之れを習う」の「習う」は、何回も何回も繰り返し繰り返し復習して勉強することを言うそうです。幾度も幾度も練習や実習をして復習すると、学んだところのものは自分の真の知識として体得されてきます。反復習熟しているうちに理解が深まって、自分のものとして身に付くということです。この「習」という漢字を思い浮かべていただきますと、上に「羽」という字があります。これは鳥がしばしば飛ぶことを意味します。ですから、「習」という字は、^{ひなどり}雛鳥が巣立ちをする前にしばしば羽ばたきの稽古をすることを意味します。つまり、雛鳥のように自習をして学んだところを身に付けることを、「習う」と言うそうです。
- (5) 「^ま亦た^{よろこ}説ばしからずや」は、理解したことを身に付けるととても心に喜びを感じることで、「これはまた何と喜ばしい、愉快的なことではないか」という意味になります。
- (6) 「^{とも}朋有^{えんぼう}り遠方^{きた}より来る」の「朋」とは、友達のことです。「知識が豊かになれば、学問について志や道を同じくする友達が遠い所からやって来て、学問について話し合うようになる」、これが「^ま亦た^{たの}楽しからずや」、つまり「これはまたとても楽しいことではないか」という意味になります。本当に素晴らしい文章だと思います。
- (7) また、最後にも素晴らしい文章があります。それは、「^{ひとし}人知らずして^{いきどお}搵らず」です。この「人」とは、世の中の人のことです。いくら勉強して自分の学問や徳ができあがっても、この自分のことを認めてくれない人が世の中にはいるのです。なかなか報いられない。自分の勉強が常に人に認められるとは限らない。もっと具体的に言うと、自分が社会で登用、つまり高く用いられることがないこともある。そのようなことがあっても「^{いきどお}搵らず」、つまり怒らない、怨まない、腹を立てないということでもあります。そして、そのような人は「^ま亦た^{くんし}君子ならずや」。「君子」とは、「学徳ともに優れた人、学徳のできあがった人、人格の高い人、立派な人」のことですので、「そのような人は非常に立派である」という意味だと思います。

子曰わく、^{まな}学びて^{とき}時に^こ之れを^{なら}習う、^ま亦た^{よろこ}説ばしからずや。
^{とも}朋有^{えんぼう}り遠方^{きた}より来る、^ま亦た^{たの}楽しからずや。
^{ひとし}人知らずして^{いきどお}搵らず、^ま亦た^{くんし}君子ならずや。

(8) 「いくら勉強しても自分を認めてくれない人が世間にはいるものである。そうした人がいたとしても怨まない。それでこそ、学徳ともに優れた君子ではないか」という素晴らしい教えが、論語の最初の「学而」という部分にあります。

3. おわりに

今日は、先週の日曜日と月曜日にありました 2 つのイベントでお話した内容を少し紹介させていただきました。

「論語」は素晴らしい文章ですので、ぜひ読んでいただければと思います。

— 2012 年 2 月 3 日改訂 —